

キシラデコールと

景観保全

● 歴史を生かすまちづくり事業（北海道江差町）

町並み再生に保護塗料キシラデコールを用いる

江戸時代、ニシン漁とヒノキ交易で「江差の五月は江戸にもない」とにぎわった北海道南部日本海に面した江差。北西の風が強く、雪や雨は冬の間、真横から叩きつけるように降ると言われる。厳しい気候もあって、「歴史を生かすまちづくり事業」の一環として江戸から昭和にかけての古い街並みを再生する過程では、かつては無塗装だったものに一段と高い耐候性を持たせようと、保護塗料としてキシラデコールを用いる。それぞれの立場で事業に取り組んできた江差町産業振興課参事の小笠原正能氏、オファル建築設計事務所代表取締役の大古正平氏、江差町歴まち商店街協同組合理事長の室谷元男氏に話を聞いた。

「いにしえ街道」沿いの町並み。江戸時代以降、この地域で見られた多様な様式を取り入れている。



街路事業に併せて、外部の景観改修がされた大正12年建築の建物。木部には保護塗料としてキシラデコールを用いている。

「歴史を生かすまちづくり事業」で町並み再生を図った「いにしえ街道」は、どう整備したのですか。

小笠原 ● 整備のきっかけとなったのは、北海道の定めた新長期総合計画の戦略プロジェクトを具体化する地区として指定を受けたことです。江戸時代から港町として発達してきたこの町には、ちょうどいい機会でした。

「いにしえ街道」は「歴史を生かすまちづくり事業」でモデル地区として指定を受けた区域を貫く旧国道です。延長は1.1キロ。沿道には約140軒の建物が建ち並んでいて、江戸後期から昭和初期までに建築されたものが全体の15%ほどを占めていました。

沿道一帯は街路事業で整備しまし

た。道路の幅員を7mから13mにまで広げる一方で、昭和初期までの古い建物はそのまま持ち上げて、拡幅後の敷地まで移しました。ほかの大部分の建物は取り壊して、拡幅後の敷地で「歴史を生かす」という狙いで定めた一定のルールの下で建て替えました。

外壁に関しては、木材、土壁、漆喰のような、材質感のある素材を用いるよう定めています。こうした素材を用いることができるように、準防火地域の指定をはずすことを北海道に申し入れたほどです。結局、準防火地域内と同等の造りとするルールを定めることを条件に、準防火指定を解除してもらうことができました。

木部の保護に関しては、どのよう

大古 ● この地域ではもともと、建物の外壁木部には保護を意識して塗料を塗ることはなかったと思います。和風の建物ではヒノキの木部はそのまま、洋風の建物では木部にペンキを塗るくらいでした。

室谷 ● そうは言っても、今回は気候の厳しさを意識しました。

この町では冬になると、「たば風」と呼ばれる北西の強い風が吹きます。雨や雪も横から叩きつけるように降るほどです。こうした厳しい気候から木部の保護とメンテナンスの必要性を考えました。

大古 ● 木部の保護を意識した建物を町の中で最初に手がけたのは、わたしが十数年前に設計した町の公衆トイレでしょう。土蔵を改修したもので、外壁の漆喰仕上げを風雨から保護する狙いで、その外側にヒバ材で覆いました。このとき木部の劣化をできるだけ防ぐため、保護塗料としてキシラデコールを初めて用いました。

「いにしえ街道」沿いの建物でも、保護塗料としてはキシラデコールが用いられているのですか。



【お問い合わせ先】

製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
販売所 ICI Paints Eco Group

木とともに生きる。 [キシラデコール]
XYLADECOR

大坂 〒541-0051 大坂市中央区備後町三丁目6番14号 アーノックス備後町TEL. 06-6268-3429 FAX. 06-6268-3420
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館9階 TEL. 03-5444-9872 FAX. 03-5444-9860
www.jechem.co.jp

キシラデコールに関する情報満載!
新ホームページ公開中
www.xyladecor.jp



左から、室谷元男さん(江差町歴まち商店街協同組合・理事長)、小笠原正能さん(江差町役場・産業振興課参事)、大古正平さん(オファル建築設計事務所・代表取締役)

「江差町歴史を生かすまちづくり事業」

1988年度から97年度までの10年を対象に策定した「北海道新長期総合計画」の中で道が定めた戦略プロジェクトの一つ。江差町でも、ニシン漁やヒノキ交易でにぎわった時代の歴史的な建造物を生かして地域の活性化を図ろうと考えていたことから、「いにしえ街道」と呼ぶことになる旧国道沿いの区域を対象に89年6月、この戦略プロジェクトの「歴史を生かす街並み整備モデル地区」の指定を受けた。以降、町はこの地区を対象に道で定めたガイドプランをもとに、各種公共事業や地区計画・条例・建築協定などさまざまな手法を用いながら、歴史資源を生かした町づくりに取り組む。主要事業の街路事業は96年度事業認可2004年度終了。

小笠原 ● 沿道で建て替えられた建物の8割ほどは和風の様式で、外壁に木材を用いています。そこでは基本的に、木目を生かした仕上がりで木部の保護を目的としてキシラデコールを用いているのではないのでしょうか。

大古 ● わたしが設計に関与したのは、このうち20〜30軒ほどでしょうか。そこではもちろん、町の公衆トイレで経験のあるキシラデコールを用いています。

室谷 ● 建て替えを手がける大工同士の情報交換もあるし、木部を仕上げるにあたって、経験のある大古さんや塗装業を営むわたしのところに大工が相談に来ることもあります。そうした中で、使いやすさと仕上がり感に加えて、腐れやカビの予防、木の変色予防効果としてキシラデコールが定着しつつあるのだと思います。

保護塗料として実際に使ってみて、どのように感じていますか。

室谷 ● 建て替えルールの中では江差の色というものを昔ながらの建物を参考に決めていきます。外壁に用いる木材に関して言えば、木材がもともと持っている素材色です。それを、うまく表現できているのではないのでしょうか。

小笠原 ● 建て替え前の色にこだわった歴史的建物の所有者の建築主もいました。風雨にさらされて銀鼠(ぎんねず)になった木部を一部持ってきて、「この色にしてくれ」と強く望む建築主もいましたね。

室谷 ● 木部を保護する一方で木質の風合いまで生かそうとするなら、やはり、キシラデコールがいいですね。ただ、建築主には塗り替えを前提としているのもっと知ってもらいたい。キシラデコールを使っているとはいえ、メンテナンスフリーというわけではありませんから。そのうち、塗り替えキャンペーンを繰り広げるのもいいですね。